特定非営利活動法人
福山市身体障害者団体連合会

第４５号

福山市身連通信

２０２２（R．４）年1月

発行者　ＮＰＯ法人　福山市身体障害者団体連合会
編集者　福山市身連　広報部市身連通信編集委員会
連絡先　電話（転送）　０８４－９６１－４７３３

目　次

新年のご挨拶　１
広島県身障福祉大会（リモート）　２
福山市障がい者相談員研修会　３
相談員協議会　年度総会
県身連研修旅行に参加　４
研修旅行　写真　５
クラフト交流会
ボウリング大会開催　６
歌声サロン開催　７

新年のご挨拶を申しあげます

特定非営利活動法人

福山市身体障害者団体連合会

理事長　菅原　晃

事務局長　根本　敏太郎

会員の皆様、所属各協会会員、関係団体の皆様　明けましておめでとうございます。

昨年はコロナウイルスの影響で生活自体も日々の活動も制約された一年間でしたが、その中でも会員の皆様は濃厚接触者となられ外出自粛となられた方がおられましたが、幸いなことに感染できびしい思いをされた方はなく元気で新年を迎えられた事と思います。

十月以降感染が下火となったためわれわれの活動も対策をしながらもどうにか動ける様になりましたので、今後もコロナにはおとなしくしてもらって、本年は我々福山市身連が令和四年度の広島県身障福祉大会の主管として福山での大会に当ることになっておりますので、この大会を成功裏に行えるため、市身連としては以前に比べて役員・会員が減少しておりそれぞれの役割は多くなるかと思われますので、一層のご活躍をご期待しております。

本年は会員各位がご健康でコロナに負けずご活躍いただける一年であります事をお祈り申しあげます。

構成団体

福山市身体障害者福祉協会　会長　種本　益明

福山市視覚障害者福祉協会　会長　大成　敏正

ＮＰＯ　福山ろうあ協会　理事長　杉原　瑞枝

福山市難聴者中途失聴者協会　会長　井上　佐智子

福山車いす福祉協会　会長　坪山　明生

神辺町身体障害者福祉協会　会長　園生　浩治

個人会員　十数名の参加会員

広島県身体障害者団体連合会　令和三年度

第五九回　広島県身体障害者福祉大会

時　令和三年十月二十八日
所　みやび（リモート会場）

昨年三原市で開催予定だった広島県身障福祉大会は今年度に延期され「ポポロ」で開催となりましたので市身連でも参加者を募りバスの手配をして用意していましたが、今年も広島県がコロナの特別地域に指定されたため、県身連は対面での開催は無理と十月に入る前に決定しリモート開催となりました。

そのため三原で県身連と県内市町の団体をＺｏｏｍで繋ぎ予定通りの日程で開催する準備に入り、福山では団体で一つのアドレスでスクリーンに映して見るためのＷｉ・Ｆｉの使える会場を探しましたが、意外と福山の公共施設で条件に合うところがなく、経費がかかりますが「みやび」で開催できることに落ち着きました。そこで事務所のパソコンの設定やプロジェクターの準備をして、本番前のリハーサルに臨みました。

三原での現地開催には十五名程の参加予定者でしたが、福山での会場には来年の福山開催に備えてさらに十名ほどが追加参加して大会の様子を見ることにしました。

園生氏を中心にリモート通信の確認をして当日の本番になり、十時の開催前にはほとんどがみやびの梅の間に集合し三原からの画像を見、挨拶を聞いて定例の大会どおりの進行を見守り、挨拶・祝辞に続き表彰者の氏名が読み上げられて、第一部式典を終了、小休憩の後議事に入り、事前に各団体に資料を送り賛否を聞いていた提出案件が読み上げられて、それに対する賛否はどの案についても賛成多数で採択されたことを報告されて議事は終了となりました。

そして閉会行事になり、最初に来年度開催予定の福山から挨拶をとなり、切ってあったマイクをオンにして菅原理事長が、来年神辺町の文化会館にて開催しますどうぞ福山へお越し下さいと発言して、最後に三原から閉会の挨拶でリモート大会を無事終了しました。

その後で発表のあった表彰者に賞状伝達式となり、今回出席いただいた福山市の岩木福祉部長から県知事賞の大谷さんに賞状を授与していただき、県身連会長賞は菅原理事長が永見さん、村上さんに授与し、連合会からも心ばかりの副賞を添えました。この後祝賀演奏として馬場康博さんに、ギター演奏と元気な唄声を聞かせてもらって伝達式を終了しました。

久しぶりに会員の集まる行事でしたので行事の終了が昼時過ぎでもあり、弁当を取ってささやかな会食で 会員同士の近況も話しあう親睦も計り、広島県大会に関する行事を終えました。

来年の福山での大会は是非とも県内各地から参加してもらっての大会でありたいと思います。

令和三年度表彰受賞者

（敬称略）

広島県知事賞（自立更生）
大谷　明巳（難聴）

県身連会長賞（自立更生）
永見　大輔（神辺）
村上　孝江（福山）
加藤　真二（視覚）

受賞者の皆様おめでとうございます。今後もご活躍を

令和3年度福山市障がい者相談員研修会

日時　令和三年十月十五日午後
会場　すこやかセンター研修室

昨年はコロナ対策で結局行われなかった障がい者相談員に対する福山市の研修会が開催されました。当初今年の研修テーマを災害時の障がい者の避難についての研修としていましたので、災害の懸念される梅雨入り前の五月に研修をしてもらうように予定していましたが、昨年以上にコロナの感染が多くなり広島県も東京などと同じ特別対策地域に指定されたため、会合禁止・会場使用停止とされ昨年同様中止となっていました。

ところが巣ごもりの夏を過ごしているうちに専門家もよくわからない減少になって、十月からイッキに指定が外されて対策をしながらも会合が出来る様になり、市に開催を求め十月十五日すこやかセンターで研修を受けました。

年度半ばを過ぎた行事でしたが六・七割の相談員が出席し、以前中止連絡のとき配られていた「避難支援」の資料をそのままに、福山市福祉総務課の森島課長と栗山主事がプロジェクターを使いながら避難に対する公助・共助・自助としての対応について説明され、これらの効果を上げるためには障がい者自身も常日頃近隣や地域の人と交流をもち、存在を認知される事が大事であるとの事でした。

今回のテーマはもう二・三回受ける研修ですが障がい者・高齢者が要支援の手続きが十分でない理由が障がい者側にあったり、命にかかわることで個人情報の方を重視する問題もありそうです。

避難支援の研修後の相談事例報告は精神の秋元相談員が報告し、相談事例に簡単に解決出来ることはほぼなく長いスパンでの対応が当たり前の大変な活動の報告をされました。その後昨年の相談回数の集計等の報告を受けて福山市の研修を終了しました。

福山市障がい者相談員協議会　総会

同会場　研修会終了後

相談員研修の終了を待って相談員協議会の総会を開催しました。協議会は新年度に入ってすぐ会計監査を済ませ、四月中に第一回の理事会を開いて、今年度の活動のための資料を作りいつでも総会を開けるよう準備をととのえておりました。

しかし昨年同様市の研修会は延期か中止かわからない状態になり昨年のように県身連の研修の時福山で開催されれば出来るかと思っていました。しかし広島県が特別対策地域の指定をされて、いったん福山でも開催しますとなっていた研修会は出来ないと県の研修資料が郵送されて来てチャンスはなくなりましたが、幸いなことにコロナが下火になり十月ですが開催できることになりました。

当日三十八名の相談員の三分の二以上の出席があって総会は成立出来、研修でお疲れなので早めの進行のため園生氏に議長役と事務局役を兼ねて委任し、先ず前年度活動報告をし、大村会計が決算報告、監査報告を坪山監事がして質疑になりましたが、質問はなく拍手で承認となりました。

そして今年度すでに後半になっていますが活動計画や予算案を提示し、とりあえず承認で総会議事に入っていない議案を提案しますと、今年度計画の団体活動がほとんど出来てなく今年度末で任期も終わるため、今年度の会費を免除の提案をし、会員から積極的な発言はなく反対もありませんでしたが決定となって議事を終り半年遅れですが総会を開催出来ました。

中・四国大会現地開催中止代替行事
広島県身連研修旅行　参加

令和三年十一月十六～十七日
広島県内各地を巡る研修旅行

昨年コロナウイルスのため予定されていた中・四国大会が中止になり、広島県身連としては団体活動の一角がなくなるのでその代替行事として県内加盟団体に呼びかけ組織強化や相互連携を図るため研修を企画し二次に渡り研修旅行を行いましたが、本年も中・四国大会担当の鳥取県が準備をして各県に募集し、福山も参加者の申し込みをしていましたが、広島県が東京などと同じコロナの対策地域に指定された後来てもらうのは「イヤ」と今年は書面での開催にしますと鳥取から通知され、参加予定者分の大会資料を各県に送って来たようです。

県身連はその資料を各協会に送ると共に昨年のように中四国参加にかわる代替行事を行い組織強化や各協会等の交流や親睦の研修旅行を行う企画をして参加募集をされました。

元々中四国大会は十一月五日の予定で、感染が減少し十月で指定も解除され出来ると思われましたが早めに中止となりましたので昨年のように代りの行事を計画、今年は「広島じゃけん」の補助があるのでその条件に合う企画を用意されましたが、広島からのコースは福山の参加者には不便で二便で出発して途中で合流となりました。

十一月十六日広島からの参加者三十名程は正午に広島駅を出て途中、東広島・三原等で参加者を乗せ見学しながら庄原へ向かい、福山の十六名は王子バス停や駅裏で全員そろい、こちらは三次ワイナリーで昼食を取って、奥田美術館で藤井フミヤの作品展を見た後広島と同じもののけミュージアムに

よって合流場所の備北丘陵公園へ向かい、恒例のイルミネーションを鑑賞と言う予定で福山からのバスは順調に走り点灯の一時間前の4時半に到着しました。

この日程の間天候は申し分なく、美術館からバスに乗る時通り雨があった以外いい天気でしたがさすがに夕方は福山と違い寒くなりましたので職員の方が屋内でお待ちくださいと休憩所に入れてもらい、その間に広島が到着すると思っていましたが、我々が点灯のカウントダウンで写真を撮っている頃広島の人が到着して声をかけてきました。点灯には間に合わなかったようです。しばらく園内を見て回って福山コースの人は早めにバスに帰り、今日の宿　かんぽの郷　に着き各自部屋に落ち着いて、予定時間に懇親会の会場「帝釈」に行ってコース毎のテーブルに着いて待ち時間になった頃広島の人がバスからそのまま会場に到着し、そろったところで山中さんが司会をして会が始まり、会長の代理で内理事が、先日の三原県大会のお礼を兼ねて開会の挨拶をして、今はこのような会合でカラオケは無理ですが県身連には芸能人がそろっていますのでと、県大会でギターと共に歌われた人の歌や、根本さんの口笛・鼻笛とか南京玉すだれなどの披露で楽しみながらの懇親会となりました。今回始めて顔を見る参加者も何人もいて新しい出会いもあった懇親会でしたが九時でお開きですと終り、各自部屋や大浴場で風呂に入り一日を終えました。

二日目のコースは昼まで同じですが帝釈の雄橋に着くのも大型バスは時間がかかるのか時間がずれ上下の町では、我々もずいぶんゆっくりと案内してもらい、写真を撮ってもらったりしていましたが、広島コースと一緒になる事はありませんでした。お昼は昨日食べた所に広島が行き今日は我々がせらワイナリーで昼食を取って、元々東城でリンゴ狩りが予定されていたが今年は不作で、それに代わって大和の果実の森公園でリンゴ狩りをして、県内を縦横に走った研修旅行は無事福山に帰ってきました。初めての参加者にも楽しい旅だったとの感想も聞けました。

研修旅行の写真（園生氏提供）

県身連組織強化事業

クラフト交流会

時　令和３年１１月２８日
所　すこやかセンター2階

障害者団体も高齢化や地方の過疎化で団体活動が難しくなっていることもあって、県身連はその打開策として会員が集い、連携を保つために行事を企画されていますが、今年は県内三ヵ所でクラフト交流会を開催して手編みでネックウオーマーを作る行事の参加者を募集されました。

その二ヵ所目が福山で予定されて、十一月二十八日、人権センターを会場に募集されていましたが、十月からコロナの対策地域の指定が外され、いろんな行事が解禁になったため、人権の会場が福山市の行事のため使えなくなり、急遽すこやかセンターのボランティア活動室を使用させてもらっての開催となりました。

福山での応募者は十七名程で、

広島から県身連の事務局長と山中さんが来られ、山中さんが講師として根本・村上の細君を助手にそれぞれの注文した色の毛糸を使い両手を使ってのネックウォーマー作りになりましたが、男性はもちろん編み物なんか初体験だという人も何人かいて、それに参加者の半数は視覚障害の人で、教える山中さんも初めはどうなるかなと思ったそうですが、最初の段階をクリアするとその繰り返しなので意外と視覚の人は早く仕上がっていました。手伝ってもらっての人もいて予定の時間にはネックウォーマーとして使える様に出来たようです。

そしてお茶を飲みながら、今回の行事で紹介された永井匠子さんのヴァイオリンの演奏を楽しませていただく予定になっていて会場が変わってストック品だらけの音響には不向きな部屋でしたが、クラシックでなく親しみやすい歌の演奏で、ヴァイオリンで聞く演歌だったりアンコールでクリスマスソングなど聞きリラックス出来た楽しい行事になりました。

福山市身連主催スポーツ活動

障害者ボウリング大会

時　令和三年十二月五日（日）
所　コロナキャットボウル

このところ十二月の障害者週間に開催が恒例になっている連合会主催のボウリング大会を今年も十二月の五日（日）に予約して会員に参加募集しました。

今年になってからのコロナウイルスは夏場にかけて全国的に広がったため、その間の行事や会合などは全面的に自粛を強いられ、急に感染が収まりを見せたため十月から活動が解禁になり、行政も各団体等も一斉に動き始め会場の奪い合い状態になるほど行事が過密状態になりました。

我々市身連も十月から立て続けに行事を再計画しましたので二週続けて活動に参加することになったりしています。それもあってか今年度のボウリングの参加応募者は昨年より少々少なく三十数名の参加者となりました。

当日の五日は広島県での新たなコロナの感染者は0名でしたが、福山市からも行事には感染対策を言われていて、みんなマスクはもちろん、検温や消毒をしての行事参加が当たり前になりました。

参加予定者の内、一名が前日転倒して不参加の連絡がありましたが、開会式の一時にはほかの全員がそろい理事長が開会の挨拶をしてこれまでコロナが参加者の集合写真を撮ってくれていたので今年もあると思っていましたがないので会員のカメラで写真を撮って、各レーンに分かれ五分間の練習後ゲーム開始になりました。

事務局長が参加者のレーンの配分に視覚の人やろうあの人に対するボランティアの事を考えてレーンを決めてあったので、その支援を受けて滞りなくゲームが進められたと思います。

前回参加以来のボウリングだという人もいてスコアはなかなか伸びなかった人も多かったようですが思いっきり投げたりで十分楽しめたようです。二ゲーム投げ終わってミーティングルームに少々過密になりながら集まり成績表をもらって表彰を行いました。最初に中間賞を五位ごとに発表し、賞品を受け取り、一・二・三位は昨年と同じくみかん一箱の賞品で、重ければ置いて帰られてもいいですよと言われながらみんなちゃんと持ち帰られたようです。ブービー賞は今年米二キロでした。

昨年はろうあ協会の参加者が最多でしたが今年は視覚協会が最多で、今年保険をかけてなかった事で事務局は気にかけていましたが、ボランティアの人たちに支援されてどうにかぶじに行事を終了出来て一安心だと気持ちを述べていました。例年だとこれが年内最後の行事ですが今年はもう一回行事があります。

成績上位者　（敬称略）

一位　道原　昭三（視覚）
二位　山上　聖司（ろうあ）
三位　高垣　さゆり（同）
おめでとうございます。

市身連文化活動

2021うたごえSalon

時　令和３年１２月１９日
所　人権センターホール

昨年コロナ禍のため我々市身連の事業である日身連全国大会、中四国大会、広島県大会が全て中止で活動がなくなりその対策に事務局が考えてピアノ演奏による歌声サロンを開催しましたが、今年もあの演奏を聞きたいという声もあって、演奏者の方に都合を問い合わせ、行きますよと返事をもらって開催の予定を立てました。

当初今年は活動出来そうで九月に会場を予約して募集し始めましたが、夏前から広島県も対策地域に入りいつできるかわからなくなりました。しかし急に感染が減り十月から解禁になり早速会場を取ろうとしましたが、各団体等が一斉に活動を始めたため決局十二月にならないと会場が取れず十九日に今年最後の活動になりました。

行事が立て込んで、募集期間も短く参加者が心配でしたが、昨年以上の参加者がありました。

事務局によると、今年は歌詞カードを作るのが大変で夜なべ仕事になったようです。又最近は体力自慢の会員が減少し、行事の時の会場設定が少数でがんばってもらう事になっています。

定刻になり、理事長が開会の挨拶をして安藤さんの挨拶があって演奏になり、「月の光」などピアノ曲を聞いて歌詞カードにある三十曲を演奏してもらい、幼いころから聞いてきた曲が多くそれぞれ口ずさみながらゆっくりとした時間を過ごせました。

以前の行事の時、直前にエアコンを入れてもらいましたが会場が広くなかなか暖房が効きませんでしたが今回は早めに入れてもらい温かく、かたずけの時は汗が出るほどでした。

これで今年の行事は終り、皆さんお元気で新年を迎え、次の行事二月のハートフル文化祭で多数の会員さんとの再会を願っております。

NPO法人　福山市身体障害者団体連合会

http://fukuyamasisinren.sub.jp/

インターネットの検索欄で、上記のアドレスをいれて検索するか、福山市身連の文字を入力して検索して見て下さい。ホームページをご覧いただけます。